

2025年度 児童発達支援 自己評価 集計結果



公表日: 令和8年3月18日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		・グループや活動の内容に応じて仕切りを移動させる等により、スペースを広げるなどして活動しやすいようにしている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓		・利用者とスタッフ1対1で対応を基本としているが、利用者の状況によっては空いているスタッフがサポートに入ることもある。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		・靴の脱ぎ履きの際の椅子や、座った際の足置きを用意している。 ・スケジュールカードの使用、休憩を別空間にする等工夫をしている。	・狭く、煩雑な印象がある為、移動スペースに余計なものを置かないようにする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		・喚起、清潔、片づけを意識して、毎日掃除を行っている。教材も必要に応じて消毒している。 ・不要なものを収納している。	・換気、空調には気を配っているが、適宜利用者の状況を見ながら調整をしていきたい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		・適宜リラックスタイムを設けて気分の転換を図っている。また、お子さん状態に応じて別スペースの確保もやっている。	・リラックスして、安心して取り組める環境が提供できるよう今後も臨機応変に対応していく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓		・現状、課題、支援の検証、改善について適宜職員間で話をしながら取り組んでいる。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・日々のフィードバックや半年ごとの個別面談で意向を把握している。	・今後も子さんの情報を丁寧に聞きとり、療育に活かしていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・情報共有、確認を心掛けている。 ・毎日「うちあわせ」「振り返り」の時間を設けている。	・今後も子さんの情報を丁寧に聞きとり、療育に活かしていきたい。更に意見の集約を図りながら多岐にわたる業務等の改善に努めていきたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓	・外部の評価機関からの評価は受けていないが、療育内容等でPTなどのスーパーバイズを受けている。	第三者による外部評価の是非も含めて今後検討をしていきたい。を
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		・法人内の研修のほかに、外部研修も受講している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		・公表されている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	✓		・療育時の状況把握、報告時の意向確認とともに、個別面談での内容などを考慮しながら作成している。	・子どもの思いを保護者にわかってもらえるような伝え方の工夫も必要かと思う。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		・スタッフ間で状況を共有し、中長期的な視点で検討している。 ・複数担当の利用者やグループ活動では、情報共有をさらに密にしている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		・適宜情報の共有とともに、見合った支援になるように努めている。	・今後とも情報の共有に努めていきたい。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		・各種検査結果をも踏まえながら、日常の行動観察等の実施を心掛けている。 ・アセスメントは適宜の更新も必要かと思う。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		・ガイドラインの内容等を踏まえながら、具体的な事柄については児発管や他のスタッフとも協議しながら設定をしている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		・特にグループ療育については、スタッフ間で意見を出し合いながら進めている。	・今後とも色々な意見を出し合ってより良いものにしていきたいです。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		・継続課題に新たな課題を取り入れる等工夫をしている。 ・休日等に日頃取り組めない課題（交通機関の利用等）を設定して取り組んでいる。	・課題に幅を持たせながら興味をもって取り組みながら自己肯定感につながるよう工夫をしていきたい。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓		・適宜個別活動の中に集団的な活動を取り入れて、学年の近い利用者間の交流の場を設定しながら取り組んでいる。	・今後も利用者の状況に応じて課の内容を変えたりしながら、色々な経験を積み上げていきたい。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		・打ち合わせ時に、利用者の状況の確認やその日の課題等を整理している。	・利用者や保護者に言動等について、次の領域に繋がるように細かな打ち合わせを心がけたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		・振り返りにて利用者の状況等を共有し、次の支援へと繋げている。	・利用者や保護者に言動等について、次の領域に繋がるように細かな打ち合わせを心がけたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		・日々の療育に関する記録は毎回行い、次の療育に活かすことができるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		・半年ごとの定期的な個別面談にてモニタリングとともに、日々の報告時にも情報の共有を図りながら適宜見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		・担当スタッフが出席できるようにしている。	・今後も担当スタッフが出席できるように調整していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		・適宜、必要に応じて取り組んでいる。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		・適宜、必要に応じて取り組んでいる。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		・適宜、必要に応じて取り組み、情報の共有等に取り組んでいる。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	✓		・必要に応じて関りを設けるようにしていく。	現在、スーパーバイズや研修は受けられていない。今後検討していきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	✓		・公園等の公共施設の中で一緒に過ごす機会はある。	
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		・日々の療育前の状況確認や療育後の報告の機会を捉えて、現状や課題について話しをし情報の共有を図っている。	・今後も担当スタッフが出席できるように調整していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		・ペアレントトレーニングは他事業所で実施しており、保護者からの質問等に対する情報提供を行っている。 ・定期的な茶話会を実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		・契約時とともに改定等があった際に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		・適宜話をする中でお子さんや保護者の思いを聞きながら、お子さんの思い等が反映されるようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	✓		・半年ごとの定期的な個別面談にてモニタリングとともに、日々の報告時にも情報の共有を図りながら適宜見直しを行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		・日々の療育時間の前後や時間等を調整しながら必要な支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		・保護者の方の活動に関するポスター掲示等で支援をしている。 ・懇談会や茶話会等で保護者間のサポートにも取り組んでいる。	
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		・事業者内に苦情対応のスタッフを配置し対応しているが、どのスタッフでもかまわない旨の案内もしている。事業所で解決できない苦情に関しては上司に報告し迅速に対応している。		

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓		・HPを活用して定期的な療育だよりの発信にて活動を伝えるとともに連絡等を適宜行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		・ファイル等は施錠できる書庫を使用している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		・絵や写真の活用、表現方法等分かり易い方法で伝えるようにしている。	今後もわかり易い説明（絵や写真等の利用）を心掛けていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		・夏のイベントやコンサートを開催し、地域の方々の参加を募っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		・各種検査マニュアルを手にとれるようにするとともに契約時等でマニュアルの存在を周知している。 ・災害時の初期避難についても利用者で行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		・策定し、定期的に訓練等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓		・服薬や発作等の情報は適宜保護者から受けている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		・医師からの指示書を頂くことはなかったが、都度保護者からの報告等を受けている。	・細かく確認等を行っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		・利用者使う器具を始め適宜点検し安全な使用に努めている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		・契約時に避難所を始め安全確保の協力を依頼している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		・作成し情報の共有とともに再発防止の検討をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		・委員会を設置し、定期的な研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	✓		・契約時に説明をし了解を得ている。 ・必要な利用者については個別支援計画へ記載していく。	

2025年度 放課後等デイサービス 自己評価 集計

公表日：令和8年3月18日



	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		・グループや活動の内容に応じて仕切りを移動させる等により、スペースを広げるなどして活動しやすいようにしている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	✓		・利用者スタッフ1対1で対応を基本としているが、利用者の状況によっては空いているスタッフがサポートに入ることもある。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		・靴の脱ぎ履きの際の椅子や、座った際の足置きを用意している。 ・スケジュールカードの使用、休憩を別空間にする等工夫をしている。	・狭く、煩雑な印象がある為、移動スペースに余計なものを置かないようにする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		・喚起、清潔、片づけを意識して、毎日掃除を行っている。教材も必要に応じて消毒している。 ・不要なものを収納している。	・換気、空調には気を配っているが、適宜利用者の状況を見ながら調整をしていきたい。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		・適宜リラックスタイムを設けて気分の転換を図っている。また、お子さん状態に応じて別スペースの確保等も行っている。	・リラックスして、安心して取り組める環境が提供できるよう今後も臨機応変に対応していく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	✓		・現状、課題、支援の検証、改善について適宜職員間で話をしながら取り組んでいる。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・日々のフィードバックや半年ごとの個別面談で意向を把握している。	・今後も子さんの情報を丁寧聞きとり、療育に活かしていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・情報共有、確認を心掛けている。 ・毎日「うちあわせ」「振り返り」の時間を設けている。	・今後も子さんの情報を丁寧聞きとり、療育に活かしていきたい。更に意見の集約を図りながら多岐にわたる業務等の改善に努めていきたい。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓	・外部の評価機関からの評価は受けていないが、療育内容等でPTなどのスーパーバイズを受けている。	第三者による外部評価の是非も含めて今後検討をしていきたい。を
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		・法人内の研修のほか、外部研修も受講している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓		・公表されている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		・療育時の状況把握、報告時の意向確認とともに、個別面談での内容などを考慮しながら作成している。	・子どもの思いを保護者にわかってもらえるような伝え方の工夫も必要かと思う。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		・スタッフ間で状況を共有し、中長期的な視点で検討している。 ・複数担当の利用者やグループ活動では、情報共有をさらに密にしている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		・適宜情報の共有とともに、見合った支援になるように努めている。	・今後とも情報の共有に努めていきたい。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		・各種検査結果をも踏まえながら、日常の行動観察等の実施を心掛けている。 ・アセスメントは適宜の更新も必要かと思う。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		・ガイドラインの内容等を踏まえながら、具体的な事例については児発管や他のスタッフとも協議しながら設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		・特にグループ療育については、スタッフ間で意見を出し合いながら進めている。	・今後も色々な意見を出し合っってより良いものにしていきたいです。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		・継続課題に新たな課題を取り入れる等工夫をしている。 ・休日等に日頃取り組めない課題（交通機関の利用等）を設定して取り組んでいる。	・課題に幅を持たせながら興味をもって取り組みながら自己肯定感につながるよう工夫をしていきたい。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	✓		・適宜個別活動の中に集団的な活動を取り入れて、学年の近い利用者間の交流の場を設定しながら取り組んでいる。	・今後も利用者の状況に応じて課の内容を変えたりしながら、色々な経験を積み上げていきたい。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		・打ち合わせ時にて、利用者の状況の確認やその日の課題等を整理している。	・利用者や保護者に言動等について、次の領域に繋がるように細かな打ち合わせを心がけたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		・振り返りにて利用者の状況等を共有し、次の支援へと繋げている。	・利用者や保護者に言動等について、次の領域に繋がるように細かな打ち合わせを心がけたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		・日々の療育に関する記録は毎回行い、次の療育に活かすことができるようにしている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		・半年ごとの定期的な個別面談にてモニタリングとともに、日々の報告時にも情報の共有を図りながら適宜見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	✓		本人の状況を見ながら基本活動を組み合わせさせて支援を行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	✓		・課題自体、課題の内容等利用者の取り組み時に時分で選択し、決定できる機会を設けている。	・自主的に取り組むことができるように課題等の設定をしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		・担当スタッフが出席できるようにしている。	・今後も担当スタッフが出席できるように調整していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		・適宜、必要に応じて取り組んでいる。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	✓		・状況に応じて情報の共有等を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓		・状況に応じて情報の共有等を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓		・必要に応じて情報の提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	✓		・必要に応じて関りを設けるようにしていく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	✓		・公園等の公共施設の場で一緒に過ごす機会はある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	✓		・状況に応じて参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		・日々の療育前の状況確認や療育後の報告の機会を捉えて、現状や課題について話しをし情報の共有を図っている。	・細かく確認等を行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		・ペアレントトレーニングは他事業所で実施しており、保護者からの質問等に対する情報提供を行っている。 ・定期的な茶話会を実施している。	・細かく確認等を行っていく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		・契約時とともに改定等があった際に説明を行っている。		
保護	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		・適宜話をする中でお子さんや保護者の思いを聞きながら、お子さんの思い等が反映されるようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	✓		・半年ごとの定期的な個別面談にてモニタリングとともに、日々の報告時にも情報の共有を図りながら適宜見直しを行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		・日々の療育時間の前後や時間等を調整しながら必要な支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		・保護者の方の活動に関してのポスター掲示等で支援をしている。 ・懇談会や茶話会等で保護者間のサポートにも取り組んでいる。	

者への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓	・事業者内に苦情対応のスタッフを配置し対応しているが、どのスタッフでもかまわない旨の案内もしている。事業所で解決できない苦情に関しては上席に報告し迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓	・HPを活用して定期的な療育だよりの発信にて活動を伝えるとともに連絡等を適宜行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓	・ファイル等は施錠できる書庫を使用している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓	・絵や写真の活用、表現方法等分かり易い方法で伝えるようにしている。	今後わかり易い説明（絵や写真等の利用）を心掛けていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓	・夏のイベントやコンサートを開催し、地域の方々の参加を募っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓	・各種検査マニュアルを手に取れるようにするとともに契約時等でマニュアルの存在を周知している。 ・災害時の初期避難についても利用者で行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓	・策定し、定期的に訓練等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓	・服薬や発作等の情報は適宜保護者から受けている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓	・医師からの指示書を頂くことはなかったが、都度保護者からの報告等を受けている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓	・利用者使う器具を始め適宜点検し安全な使用に努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓	・契約時に避難所を始め安全確保の協力を依頼している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓	・作成し情報の共有とともに再発防止の検討をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓	・委員会を設置し、定期的な研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	✓	・契約時に説明をし了解を得ている。 ・必要な利用者については個別支援計画へ記載していく。	

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援・放課後等デイサービス）

○事業所名	grand-mere 浜田町		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 8日		2025年 12月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	137	(回答者数) 50
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日		2025年 11月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の特性等を考慮してそれぞれに合った課題を提供し、状況に応じて変更等も適宜行っている。	個別での療育を行っている。インテークや日々、保護者からの情報供給、個別面談時にて課題の整理等を行いながらそれぞれに合った課題を提供し、他のスタッフとの情報の共有にて新しい課題の発見にも繋げている。	日々の療育の中で利用者のアセスメントをするとともに、保護者からの聞き取りを行ないながら現状の把握に努める。本人の意思をお確認しながら実現に向けて保護者との共通理解に努める。
2	療育の形態にも変化を持たせている。	同じくらの学年の利用者が複数人いる場合に、利用者と相談してカードゲーム等の時間を設けている。対人関係やルール等についての気づきを促がしている。	同学年同士の関りも大切ではあるが、時に少し年齢的に上下のある中での関りも良いと思われる。機会があれば取り組んでみたい。
3	近隣に買い物ができる商業施設がある。また、駅にも近い。	・調理では材料の購入から調理までを自分で取り組めるように計画を立てている。卒業後の事を考えて交通機関の利用や買い物に意識的に取り組んでいる。	夏休みや祝日等を利用して自分で買い物や外出の計画を立て、購入品の予算やバスの時刻等確認をしながらより充実した活動へ繋げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の入り口が2か所ある。	毎回どちらの方を療育で使うか「わからない」時もあり、即時の対応が難しい利用者には事前の連絡をして対応している。	拘りの強い利用者を含め配慮を要する利用者には事前連絡の徹底し、さらに安心して来所できるようにしていく。
2	狭い事もあり、雑然としている感はいがめない。	通路側にものがはみ出さないようにしている。	こどもの目線に立って更なる安全面の点検を行っていききたい。使用していないものの整理も進めていきたい。検証を日ごろから行って職員の増員を検討する。スケジュールの組み方を工夫して職員の手が空く時間を作るように努力したい。
3	スタッフ間の全体としての話し合いの時間がとりにくい。	その場にいるスタッフでの話し合い等を行い、別日等で別のスタッフとの話し合い等にて行い、漏れが無いようには努めている。	色々な意見を出し合ってより良い療育ができる環境にしていきたいので、問題等によっては短時間でも多くにスタッフが揃う所で話し合う場面を設定していきたい。



2025年度 保育所等訪問支援 自己評価 集計結果

公表日:令和8年3月18日

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。		✓		教具教材は使用していない。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。		✓			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		✓			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		✓			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		✓		個人的には意見交換している。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓			
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		✓			
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	✓			保訪前に面談等で聞き取りをしている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓			主に担当者や訪問員間で行っている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。		✓			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。			✓		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。			✓	療育スタッフと共有している。 保訪のみの利用者については、フォーマルなツールは使っていない。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	✓			基本的に、本人支援の内容が組み込まれている。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。			✓		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		✓		基本、個人で行っている。 二人で行くときは行うこともある。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		✓		二人で行くときには行っていることもある。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	✓			見守ってほしい、直接支援はしないでほしいと言われた際には応じている。	
関係機関や保護者との連携	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	✓			必ず記録している。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		✓		訪問先にはしていない。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。			✓	保訪事業ではなく、療育事業所として行くことが多い。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓			学校等とは密に連絡している。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		✓		必要に応じて適宜対応している。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。		✓		グランメール事務所全体として行っている。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		✓		グランメール事務所全体として行っている。	
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	✓			保護者とのやり取りは密である。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		✓		保訪としてはない。	

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
保護者等への説明等	27 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			契約時に行っている。	
	28 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	✓			希望があった際には、学校への連絡時に行っている。	
	29 保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓			面談時に行っている。	
	30 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	✓			サイン頂戴時に説明している。	
	31 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	✓			放デ・児発とも併せて行っている。	
	32 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			✓	グランメール事務所全体として行っている。	
	33 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓			必要に応じて相談部門に繋げる。	
	34 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓			ホームページ、メールで行っている。	
	35 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓			書類の持ち運びはしない。鍵付きロッカーで保管している。	
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓			フィードバックを行っている。	
訪問先施設への説明等	37 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	✓			関係機関や担当からの相談にも応じている。	
	38 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	✓			必要に応じてオンライン・電話等でも行っている。	
	39 保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	✓			電話・面談・紙面での報告を行っている。	
	40 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓			35と同様。	
	41 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	✓			信頼関係の構築を重視し、密に連携が取れるよう意識している。	
非常時等の対応	42 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓			グランメール（浜田町事業所）と共有している。	
	43 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			✓	グランメール（浜田町事業所）と共有している。	
	44 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓			報告書作成の上、共有している。	
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓			グランメール全体として行っている。	
	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			✓	現段階では記載していないため、今後取り入れる。	

公表

事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援）

○事業所名	grand-mere		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年 11月 11日		～ 2025年 11月 29日
環境・体制整備	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 23
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 1日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメント	当該児に関する保護者からの情報の聞き取りや利用している施設からの話を踏まえ、利用者一人ひとりの状況・特性等を丁寧にアセスメントし、解決すべき課題に対する支援目標やそれを達成するための適切な支援方法を検討する。	
2	各関係機関との連携	訪問先施設及び関係機関との連携を図るため関係者会議を行ったり、基幹相談支援センター等からのアドバイスを受ける等、情報共有をしながら適切な支援につなげる。	
3	フィードバック	保護者に対して実施後のフィードバックを必ず行い、情報共有すると共に、今後の支援方針についての助言を行う。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の人員不足	訪問支援員には、高い専門性と、保護者のパーソナリティや学校の風風を鑑みた支援を行うことができる手腕等が求められている。	人員不足解消のための資金援助が必要となっている。
2			
3			